

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870300357	
法人名	医療法人社団 青洲会	
事業所名	グループホームおらが里	
所在地	茨城県土浦市藤沢3534-1	
自己評価作成日	2022年3月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870300357-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所	
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2	
訪問調査日	2022年5月19日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の今の思いに寄り添い、安心して過ごせる居心地の良い環境作りに努めています。季節を感じられるよう庭やプランターで草花を育てたり、フロア内の飾り作りを一緒にしています。お楽しみ食には入居者様の要望を取り入れ、作る・食べる楽しみを共有しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍で様々な制限のある中、利用者の希望を把握し、個々のやりがいや楽しみを見出している。今の思いに寄り添い、安心・安全に向けた環境作りに努めることで、利用者にも自然と笑顔が見られる事業所であった。季節の草花や創作物を飾り、四季を感じる事が出来るよう努めている。家族・地域に向けて広報誌を発行し、事業所の取り組みを伝えている。感染予防マニュアル作成・必要物品整備・ガウンテクニック・ゾーニング・シュミレーションを実施し、全職員で共有している。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し、常に意識できるようにしている。ケアや対応に行き詰った時は理念の実現により近づけるようにと考え実践している。	理念を玄関・リビングに掲示し、日誌や名札の裏にも記入があって常に振り返りが出来る。疑問が生じた時には、管理者と一緒に利用者にとっての『今』を考え、個別ケアに努めている。職員は利用者の笑顔や感謝の言葉に癒されているとの事。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するショッピングセンターの利用、近隣の催し物や行事への参加、歌や踊りのボランティア訪問等新型コロナウイルスのため中止している。	これまで行っていたショッピングセンターへの買い物や地域イベントへの参加、ボランティア受け入れやケアセンターとの合同夏祭り等は、感染予防対策として自粛している。家族・地域住民を対象に、ふれあい茶屋(オレンジカフェ)を毎月開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	土浦市に委託を受けて認知症の方や介護されている家族、地域の方を対象に毎月認知症カフェを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため書面開催とし、2か月に1度報告書を郵送している。	コロナ禍の為、2ヶ月毎に書面報告で開催しており、利用状況や事業予定・報告、身体拘束について等の内容となっている。議事録は家族に郵送し、職員には回覧でそれぞれが確認後にサインをする。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と随時連絡を取り、サービス状況の報告や相談に努めている。	各担当課(社会福祉課・高齢福祉課・地域包括支援センター・社協)とは随時連絡を取り、事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている。中学生の体験学習受け入れの要請はない。土浦市の委託を受け、毎月、ふれあい茶屋(オレンジカフェ)を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、身体拘束についての理解を深めている。事故報告書を活用し、拘束を行わずに事故を防ぐためのケア方法を考え実施している。	身体拘束等適正化検討委員会を立ち上げ、勉強会の開催や不適切ケアの芽チェックリストからの警鐘、安全・安心に向けたケアに努めている。研修会は年2回開催予定。やむを得ず拘束となる場合は家族に説明し、解除に向けた取り組みを記録に残している。現在、拘束対象者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、日々のケアの中でお互いの言動について振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人や家族の不安や疑問を確認し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に近況報告をしながら要望等確認している。	コロナ禍で面会を制限しており、電話や広報誌で利用者の様子を伝えている。家族会の開催も見合わせている。家族からの意見・要望は無いが、職員に対する感謝の言葉とコロナ収束後の面会を待ち望む声が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を活用して出たスタッフからの提案や日々の関わり、面接時に得られた意見や提案はできる限り早めの対応に努めている。	運営に関する報告は事前に行っている。日々の気づきはその都度管理者に相談し、検討している。ケアに関する提案が多い。人事考課を活用して3ヶ月毎に面談を実施し、意見や提案を聞く機会もある。管理者・職員の関係は良好で話しやすく、コロナ禍で制約はあるが、特にストレスや不満はないとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育段階に合わせて、外部・内部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	土浦市地域密着型サービス連絡会は新型コロナウイルスのため中止している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず直接本人にお会いし、施設生活への困りごとや不安の把握に努めている。できる限り入居前にはホームの雰囲気を感じてもらおうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせや施設見学、利用説明時に困りごとや不安、要望等確認しながら、施設でできることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所、他職種と連携を図り、本人にとってより良い環境が提供できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自発性を大切にし、それぞれの得意分野などから役割が見いだせるよう、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のこれまでの関係継続や本人の想いを代弁・橋渡しすることにより、家族との絆を大切にし、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話や手紙のやり取り等希望時には交流が図れるよう支援している。オンライン面会が可能となっている。	電話・手紙・はがきで大切な親族や馴染みの人との関係継続に努めている。携帯電話を所有している利用者もいる。オンライン面会を実施している。デイサービスの利用者と窓越しに挨拶を交わしている。職員・利用者同士が支え合う関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが円滑に図れるよう職員が会話の橋渡しをしたり、利用者同士の関わり合いができていた時はさりげなく見守る等状況に応じて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了に向けた支援の段階から他事業所、他職種と連携を図り、いつでも相談・支援を継続できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから得られた生活への要望・想いはケア記録やカンファレンス用紙を通して職員間で共有し、実現できるよう努めている。また、表情や行動からもニーズ把握に努めている。	日々の会話から思いや暮らし方の希望を吸い上げ、出来ることを検討し、ケア記録・カンファレンス用紙に記録して全職員で共有し、実現化に努めている。カラオケ・民謡・脳トレ・ちぎり絵等の趣味や洗濯干し・たたみ・食器拭き等の家事で意欲向上ややりがいに繋げている。食事の希望(おはぎ・いなり等)が出た場合は感染対策をしながら、一緒に作っている。意思の把握が困難な場合は選択できるような問いかけを工夫したり、表情・様子から利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に家族から確認したり、日々の関わりの中から把握し、できる限り馴染みの暮らしが継続できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子、言動の背景や要因を探り記録することで職員間で共有し、ケアの評価・継続に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、更新は6か月ごとに行っている。日々の関わりから得られた本人のニーズや家族の意向を確認しながらプランニング、修正を行っている。	利用者・家族から意見・要望を聞き、カンファレンスでニーズとケアのあり方について話し合いプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。ケース記録には詳しく(言葉・様子・表情・仕草・行動・背景・要因・ケアの実施・評価と修正した計画)記録され、利用者のその日の様子が分かる。モニタリングを毎月実施し、6ヶ月毎に更新し、現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に気づきや本人の表情・様子等を残し、評価・再プランにつなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や力量、その時々ニーズに合わせ、ホームとしてできることできないことをすり合わせながら、できる限り柔軟な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため外出は自粛しているが、希望する本を職員が図書館で借りてきて楽しませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。受診の際には、本人の最近の様子や健康状態がわかるよう文章を作成している。	かかりつけ医は情報提供書を持参して受診し、結果報告を受けて記録に残している。協力医療機関より月2回の往診と週1回の訪看が入り、職員の質問等を含めて記録に残し、体調管理に努めている。母体の医療機関受診前にはFAXで状態を伝え、スムーズな受診体制がとられている。協力医療機関は24時間連携可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、連携看護師の定期的な訪問時に相談しアドバイスを受けて健康維持が図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の入院治療計画書に基づきながら、退院後も生活継続ができるように経過を追う中で病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての方針を説明しているが、状態の変化に合わせて丁寧な説明、本人・家族の意向を確認し医師や看護師との連携を図っている。	契約時に看取り指針を説明し、在宅医療計画書で急変時の対応確認を含め、同意書を取り交わしている。医師・訪看より状態の変化に応じてこれから起こりうる状態等の説明があり、利用者・家族の意向を確認する。要望が出た場合は医師・訪看と連携をとり、チームでターミナルケアに努めている。急変や転倒・嘔吐・看取り等の症状別事故発生マニュアルを作成し、急変時メモで利用者の状態を明確に伝えることができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しており、急変や事故が発生した時に適切な対応ができるよう確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルスのため消防署と連携した訓練を行っていないが、職員間で避難方法の確認や備蓄食料を使った訓練を行っている。	コロナ化の為、消防署指導の訓練は自粛となっているが、隣接施設と合同訓練を実施し、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。前回の評価を受け、民生委員等の協力依頼は行った。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けていると共に、接遇の勉強会を行い言葉かけや対応の振り返りを行っている。	肖像権を含めた個人情報保護に関する同意書を取り交わしている。接遇に関する勉強会を行い、日々のケア提供を振り返っている。利用者とは視線を合わせて笑顔での会話を心掛けている。笑顔があふれる自然な光景を見ることが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な言葉で想いを表出することが難しい方へは自己決定しやすいよう選択肢をいくつか提示し、自己選択しやすい場面設定を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの想いを大切に、本人と相談しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を選んで頂いたり、好みのヘアスタイルや身だしなみができるよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを一緒に行っている。誕生日や行事の時は食べたい物や好きな物をメニューにしている。	食材は外注しているが、準備や後片付けは利用者もレベルに合わせて行っている。イベント・誕生日にはリクエストを聞き提供しており、寿司・天ぷら・刺身・稲荷・けんちん汁等が多い。パンの提供は月2回となっているが、おやつ感覚の方もいる。現在、職員は別に食事をとっているが、マイ箸・茶碗・汁椀・ゆのみで食事していた。外食は難しい状況なので、テイクアウトを利用している。全利用者が普通食で、制限食の方は居ない。食後は口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量にムラがある方や体調変化がみられる時はチェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後習慣として口腔ケアを行えている。義歯洗浄ができるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターン・様子・表情を把握し、さりげない声掛け誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実施している。自立の利用者には見守り支援で、後から確認をする。乳製品・オリゴ糖摂取・軽体操・散歩等で便秘予防をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、オリゴ糖を摂取したり、軽体操、散歩等楽しく体を動かせる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や習慣、タイミングに合わせて入浴支援している。	利用者の希望に合わせた入浴支援を実施している。拒否がある場合は臨機応変に柔軟な対応をする。ゆず湯・しょうぶ湯の時は普段より話が弾む。皮膚感染予防対策は実施している。着替えの準備は自立の利用者以外は利用者に聞きながら職員が揃えている。爪は職員が切っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣やその時々活動と休息のバランスをみながら、安眠できるよう室温や音等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時は薬の説明書を確認し、症状や心身の変化の経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や工作等個々の力を活かした役割が行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム敷地内の散歩は行っているが、新型コロナウイルスのため外出を自粛している。	コロナ禍で外出支援は自粛している。ホーム敷地内は広いので、程よい距離の散歩となっている。ホーム前の道路が桜並木となっているので、お茶を飲みながら、花見をしたり、夕涼みがてらお弁当を詰めて外で食事をしたり、花火をした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを希望される方は家族と相談の上少額所持して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話や携帯電話、手紙等いつでも家族や大切な人と連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に必要な情報、日時や場所等をわかりやすく、家庭的な雰囲気や損なわないように配慮している。季節感を採り入れ、心が和むような居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	わかりやすく見やすいカレンダーや時計を掛け、見当識に配慮し設置している。季節の飾りで四季を感じる工夫がされていた。ソファで気の合う利用者同士が会話を楽しんでいる。トイレ・浴室はわかりやすい表示となっている。リビングからは利用者が寄せ植えしたパンジーがきれいに咲いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ等配置にて共有空間や個人で過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や小物を持参して頂き、安心した居室環境となるようにしている。	居室入口の視線の高さに名前を掲示し、混乱防止に努めている。衣装ケース・椅子・テーブル・テレビ・タンスを動線と安全面に配慮し設置している。ラジカセ・目覚まし時計・脳トレクロスワード・アルバム・位牌を置いたり、家族の写真・遺影・ぬいぐるみ等を飾り、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。居室掃除は職員によりアルミサッシ窓の溝まで丁寧に実施されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、フロア内には手すりが設置されている。居室の名前を目線の高さに掲示したり、居室内の配置も考えている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームおらが里

目標達成計画

作成年月日 : 2022年7月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		法人内グループホームと統合予定	入居者様の今の想いの寄り添い、安心して過ごせる居心地の良い環境作りに努める	・日々の関わりから、本人の想いや希望を把握 ・できること、できないことを検討 ・職員間で情報共有 ・家族や地域との連携	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。